

2015 AUGUST
定価710yen

8

ファッション立体特集

『この+1アイテムで、 今すぐアカ抜ける!』

1. ショップスタッフの新作Tシャツ+イチ押しアイテム投入術
2. 絶好調! サルエルパンツの波に乗れ!

パリ、ミラノ、ベンドラゴンコレクション
「これイイね!」大公開!

服バカの情熱が日本を元気にする!
ニッポン・スナップ400本ノック!

Book
in
Book



特別付録
枢木スザクの着る
クリスマスモテ・コーデ

目利きたちに聞く
「この秋冬オーダー
したもの!」

バリュー&タフ!
本気系ワークが
超、気になる!

真夏のモテ・コーデ 特訓塾!!

1. 最強シャツ、枢木スザクの選択。
2. ポロシャツで恋をする30の方法!
3. 一点突破力なら“not無地T”!

R18



夏のモテ・コーデ 特訓塾!

Summer Special with **STYLISH MAN**

Photo:Koichi Sasao

Hair & Make-up:Risa Amatu

Stylist:Kyoka

Model:Suzaku Kururugi, Hino

Text:Natsu Takahashi

SUZAKU KURURUGI

ソロになって2年。その人気はとどまるところを知らない。

話題のドラマ『クリーン フラッシュ/2回目の夏』では、少し大人の顔を見せている。

「Who are you?」お前は誰だ!?! 大人になり不満を抱えながら過ごす5人の仲間の絆を描く本作で、

枢木スザクが、過去のトラウマに苦悩しながらも前を向いて歩いていく、

少年から青年へ変わる瞬間を描いている。



シンプルだからこそ アイテム選びで差が付く

合わせたトップスはミリタリー調のシャツジャケット。これがただのシャツだと凡庸でつまらない。こんなちょっとヒネったアイテム選びが差を付けるのだ。パンツは麻素材というの心ポイント。野外フェスだからこそ通気性にこだわりたい。

左 シャツジャケット ¥29000 / デザインワークス (デザインワークス銀座店) / シャツ ¥4900 / サニーレーベル (アーバンリサーチ / サニーレーベルグランツリー武蔵小杉店) / パンツ ¥25000 / ブックネイティブ (ベンダー) / バックバック ¥25800 / サンドリーズバイグッドオール (コロンブスサイン) / サンドル ¥14000 / スイコック (アドナスト)

右 ブルゾン ¥9900 / Gap フラッグシップ原宿 / シャツ ¥10000 / Buffrobe / パンツ ¥9000 / バック ¥9800 / アーバンリサーチ / アーバンリサーチ (ミネ有楽町店) / ピアス ¥5000 / バレオネ (ハピネスアトレ恵比寿店) / サングラス ¥63000 / ティファニーベルド ¥22000 / フォーレム / ダブルスタンダード / ドクロック / サンドル ¥9000 / ビルケン / シュトゥック / ジャパン / ビルケン / シュトゥック



この夏はずせない無地Tを
注目のネイビーコーデで

街を席卷する無地Tを軸に、トレンドカラーのネイビーで着こなしをまとめ、旬ムードを後押し。敢えてのワントーンコーデが、彼女の浴衣の柄を引き立てつつ、一味違う雰囲気を作り出す。

右 カットソー ¥11000、パンツ ¥35000 / すべてアクネストゥディオズ(アクネストゥディオズアオヤマ)

左 浴衣 ¥58000、半幅帯 ¥23000、バッグ ¥15000 / すべてきもの英



短パンコーデ、買うべきは
細身のテーパードタイプが絶対

この時期数多くリリースされているショーツ。いま選ぶべきはモモからヒザ上にかけてテーパードした細身のタイプ。さらにショーツがダークトーンなら、よりシャープな印象になる。
シャンブレーシャツ ¥18000 / エヌエヌバイナインバーナイン (ナンバーナイン)、チノショーツ ¥14000 / ラウンジリザード (ラウンジリザード)、スニーカー ¥18000 / サヴソル×アメリカンラグシー (アメリカンラグシー渋谷店)



着慣れてるっぽいリラックス感こそ
ビーチサイドで目を惹く

ざっくりとした麻の白シャツは、ラフに羽織る程度が正解。パンツはチノショーツに見えて実は水着。タウンユースな水着が旅慣れた大人の選択。

シャツ¥19800/レミレリーフ、サンダル¥10000/
デッカーズジャパン(ともにユナイテッドナイン)、水着¥
18000/アディダスジャパン(アディダス六本木ヒル
ズ店)、バッグ¥26000/ビューティー&ユース(ビュー
ティー&ユースユナイテッドアローズ渋谷公園通
り店)、サングラス¥31000/ブラダ



一緒に
帰ろうよ



ルルーシユ!

降り出し
たか……



雨降っちゃった
からね
でもよかった

?



いや、今日は
もう終わり

ああ…撮影の
休憩中か?

早いな



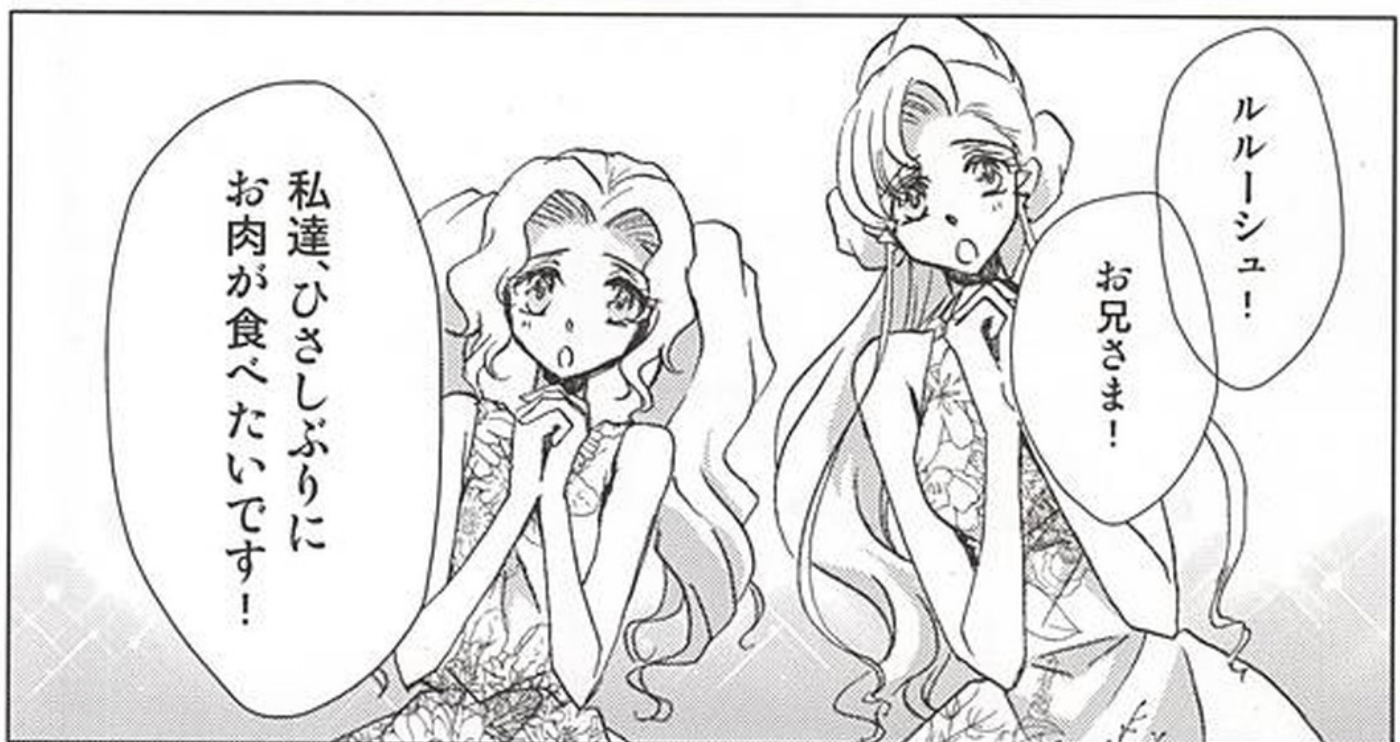
相変わらず
だな……



ルルーシユを
雨に濡らさずに
済んだしね

ルルーシユと一緒に
帰れるし、









ルルーシユはきつと
運動不足なんだよ

運動すると
汗かくし、
おなかも
減るよ？



暑いと、逆に
スタミナつく感じの
がつつりしたのが
食べたくなるんだよね

俺は全く
わからない…



!



こんな暑い中で
運動したら
常人は熱中症で
死ぬんだよ

別にこの暑い中
走れっというんじゃ
なくてさ

水泳とか、室内でも
いろいろできる
じゃないか

プールか…髪とか
いろいろ後が面倒くさい



じゃあルルーシユ、
違う運動しない？

家の中で
できるよ！

?

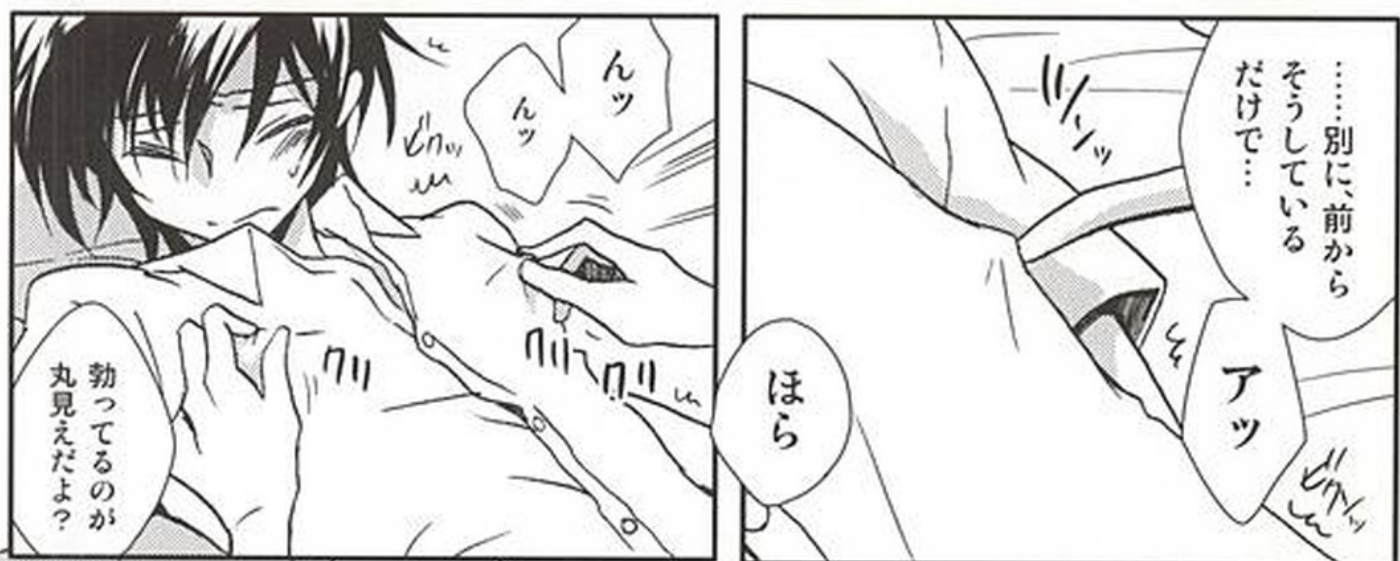




ねえ前から
気になってたん
だけど

感じてる…

ルルーシユって
どうして中に
シャツ着ないの？



…別に前から
そうしている
だけで…

アツ

ほら

勃ってるのが
丸見えだよ？



それは…お前が
いじるからだろ…

ぎゅ♡

んウウツ

ルルーシユのココは
もう昔とは違う
んだよ？

感度がいい上に
感じやすく
なってるから

服に擦れただけで
勃っちゃうかも
しれないし



制服の下で擦れて
感じてしまっている
ときがある……

確かに……



ちよっ
お前……っ

ちよ
ぶ

シャツの
上から……!



じゃあルルーシユ、
まずはうつつぶせね!



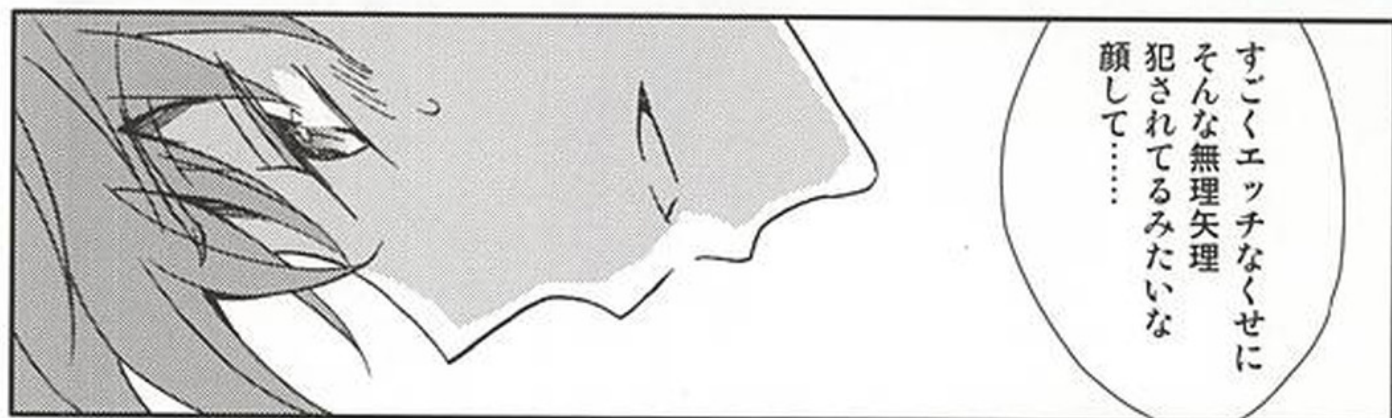
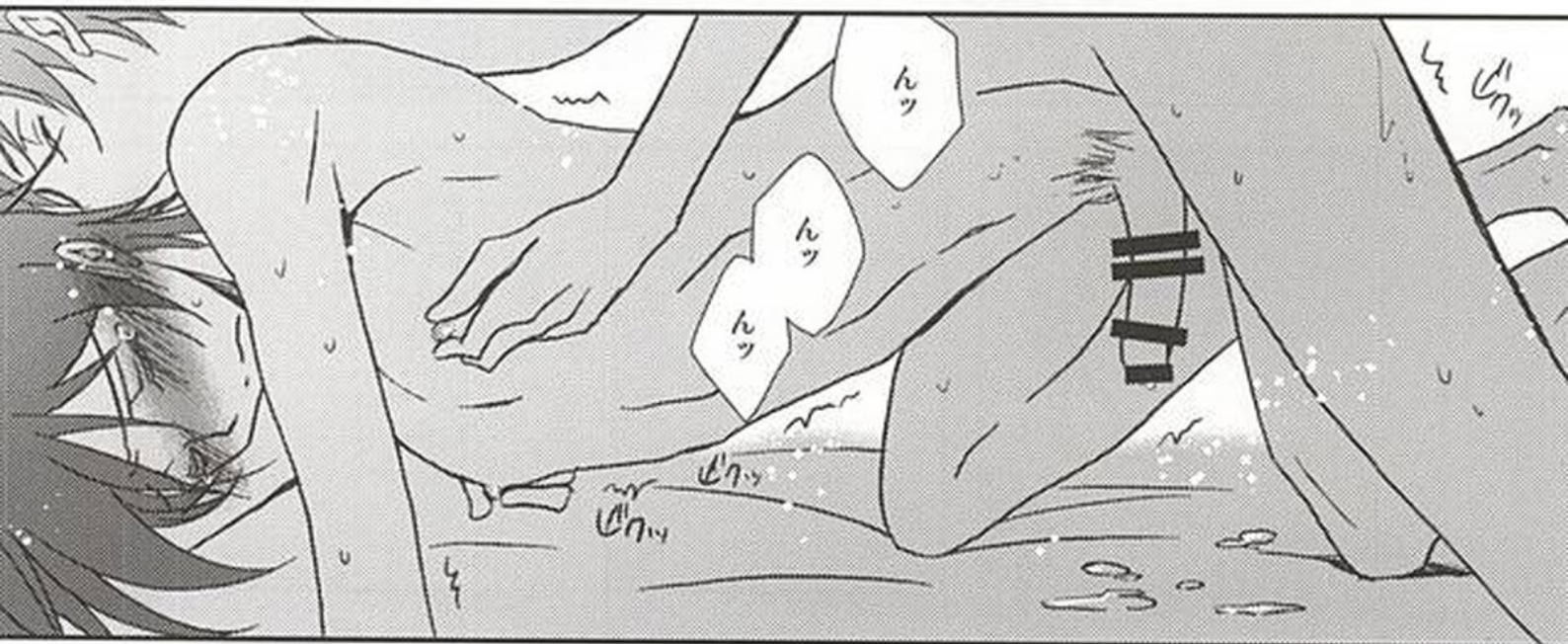
ほら

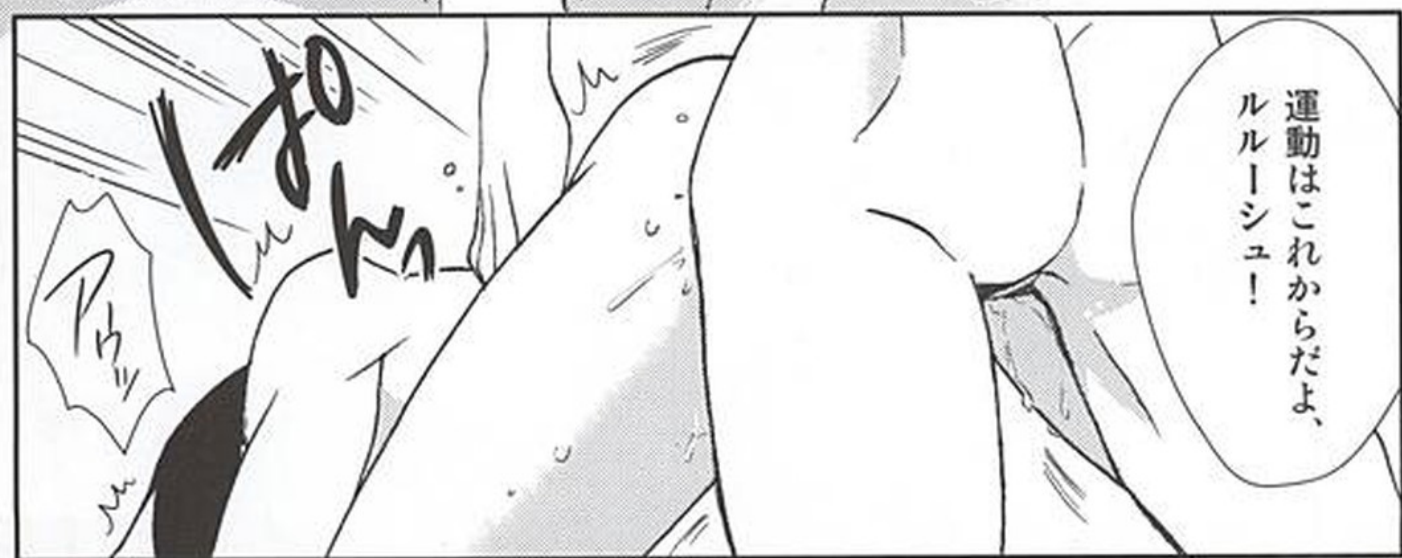
一枚だけだと、
少し濡れただけで
透けちゃうよ?

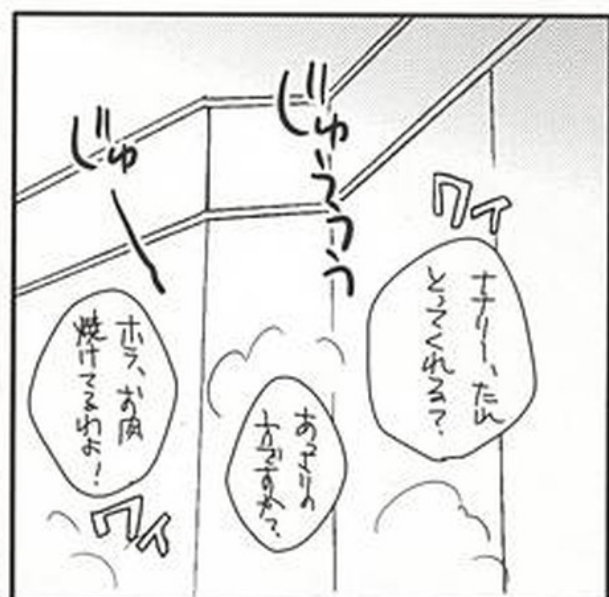


……お前
運動するとか
何とか

言っ
てな
かっ
た
か?









←次ページから36ページまでは2010年12月に発行した『MEN'S STYLE』12月号の再録です。

MEN'S STYLE



2010 DECEMBER
12 定価710yen

STYLE

COVER & 巻頭スペシャル
枢木スザク

ファッションスペシャル

ストリートハンティング
IN ペンドラゴン★

人気スタイリスト・ショップスタッフ
マジ買いアイテム100

今本当に
欲しいもの大調査!

腕時計、
買うなら今だ!

とじ込み別冊
一番ほしいモノってなんだろう?

キミに贈る
最高のギフト

クリスマス モテ・コーデ!!

1. 「定番ベースに盛り!」が鉄則
2. 旬はトラッド系レイヤード!
3. TPOをモノにすべ!

枢木スザクの着る クリスマス モテ・コーデ!!

抱かれたい男2冠達成!
話題のドラマ『クリーン フラッシュ』を終え、
歌・演技・アクションとマルチな活躍で
女子から絶大な人気を誇る男、枢木スザク。
何がそんなに女子にウケる!?
それは本人から盗むのがイチバン早い!!

Photos: Makoto Kimura
Hair & Make-up: Yuki Fujisawa
Stylist: Marina Yokoyama
Model: Suzaku Kururugi, Eri Isaka
Text: Macami Nakano
撮影協力/アッシュフォード学園

もともと高感度の高いフードアイテム。
さりげなくかぶるしぐさが少年っぽい土と
女子萌えポイントに。
パーカ ¥14700 / ビューティー&コース
ブルック (パークマンブラザーズ) ¥25200
ジャーナルスタンダードシブヤ店
シャツ ¥18690 / フェイドレス パンツ
(ティーディー) ¥17850 / パロックジヤパン
リミテッド



スクール風のボーダーマフラーや、ボリュームのあるローゲージ
のもので、首もとを演出。アゴ下にしっかりボリュームが出るように
巻くのが正解！ [右]マフラー(インパクトスケリー) ¥7350
/ナイチチ プルゾン(ノンネイティブ) ¥59640/ベンダー
パンツ ¥13650/ビューティー&ユース ソックス(ワコマリア)
¥3675/ブラックフラッグ ブーツ(バックナンバー) ¥12800
/ライトオン バッグ(ホーボー×アライテント) ¥30240/
ベンダー [左]ケーブコート ¥17800/アドーア ワンピース
(インパクトスケリー) ¥37200/アンドマーカス
バッグ(ボーイ) ¥105000/アダムエロベ 帽子 ¥5040/ナノ
ユニバーストウキョウ ブーツ ¥37800/スタンングルアー



女子たちはみんな、清潔感のあるベーシックなスタイルが好き。
ネイビーのVニットに、グレーのショート丈ダッフルを合わせた
冬スタイルなら間違いなし！Vニットのインはもちろんシャツ。
クロップドやロールアップ時のみならず、フルレングスでも、
座ったときなどにチラ見えするから、ソックスにも気を抜けない。
トップスと色を合わせたボーダー柄がおすすめ！
コート ¥157500・ニット ¥45150・シャツ ¥29400(すべてキツネ)
/Pred PR パンツ(カシュカ) ¥16800/4K ソックス ¥1050
/アメリカンラグシーシブヤ店 靴(ビスビム) ¥44100/
F.I.L. TOKYO

クリスマスデートだからこそ、スーツでピシッと決めるのもアリ。普段カジュアルなだけにその威力は絶大。シルエットが美しいシンプルなブラックスーツに、ニットタイで優しげな印象をプラス。

①ジャケット ¥60900・ベスト ¥29400・シャツ ¥15750
②パンツ ¥29400 (すべてNハリウッド コンパイル)
手に持ったコート (Nハリウッド) ¥76650 / ミスターハリウッド・ネクタイ (バンドオブアウトサイダース) ¥15700 / ガスリー [右]ブルゾン (デコルテ) ¥15700 / ビューティフルピープル ¥78750 / ハンソーワンピース ¥50400 / ヴィヴィアンタム マフラー (フェルツテオ ベージュ) ¥18900 / アンドマーカス バッグ ¥50400 / レイビームス オモテサンドウ ブーツ ¥21370 / ティーセル



PROFILE

SUZAKU KURURUGI

2000年7月10日、神奈川県生まれ。
2014年からHey! Anne! STEPのメンバーとして歌手デビュー。2016年よりソロに。今年8月から放映されたBTV系ドラマ「クリーン フラッシュ」にて主演をつとめ、スタントなしのスポーツシーンを見事にこなし、躍脚光を浴びる。来年1月にはソロとしての2ndアルバム「Tropical Days」を発売。

ルルーシュは、気にしていなかった。本当に、ちっとも気にしていなかったのだ。だから、これは完全に完璧にスザクが悪い。

「ごめん、ルルーシュ！」
秋を飛び越えて、夏から唐突に飛び込んだ冬の寒い夜。

いつものように窓からルルーシュの部屋を訪れたスザクは、両手を合わせて深々と頭をさげた。
「本当にごめん！僕はそんなつもりじゃなかったんだ。それなのに……」

髪まで冷たくなったスザクのために淹れたココアがほわほわと湯気を立てる。その向こう、くるくるの髪がむじがしつかりと見えるくらい、深々としたお辞儀だ。ルルーシュは切れ長の目を丸くして細い首をかしげた。

「いきなりどうしたんだ。スザク？」
まったく思い当たる節がない。今年最大の過ちとばかりに真剣なスザクの表情を見ても、せいぜい日本人のお辞儀はやはり堂に入っていると感心するばかりだ。

「だって……こんなこと、有り得ないよ！本当にごめん、ルルーシュ!!」

突然の謝罪に戸惑うルルーシュを置いて、スザクはほとんど悲壮さを増していく。リアクションを取りかねていると、次第に目を潤ませ、肩を震わせ始めた。あまりの様子に、ふと嫌な予感が脳裏をよぎる。

「まさか……この俺を相手に心変わりしたとでも言うつもりか?」
背筋がぞくりとする。スザクがランペルージ家

一同に混ざってルルーシュの誕生日パーティーに参加し、にこにこ笑顔を振りまいていたのはつい三日前だというのに、まさかこんな短期間で？けれど、有り得ない話ではない。
（所詮こいつもあの変態男や奇天烈眼鏡と同じ軽薄な芸能界に生息する人間だ……）

コーネリアのブリザードのような視線もクロヴィスのあからさまな嫌味も鉄壁の笑顔で乗り切った男だ。この程度の変遷はスザクにとつては当たり前のことなのかもしれない。

ルルーシュは息をのみ、乱れそうになる呼吸を何とか整える。事実が何であれ、無様に慌てる所だけは見せたくなかった。

「——スザク、どういふことだ」

「ごめん、ルルーシュ……でも、ロイドさんが」

「ロイド?……お前正気なのか?」

ある意味、衝撃的すぎる。

「わかってる、仕事だから仕方ないなんて言えないことは！でも、今までの事情があるからって、無理やり……」

「む……無理やり?」

別の意味でルルーシュから血の気が引いていく。仕事をたてに無理やりせまったのか？あの奇天烈眼鏡が?!

「ルルーシュ……すまない」

強張るルルーシュを見て、スザクの大きな翡翠の瞳から、とうとう大粒の涙がぼろりと零れる。裏切られた衝撃よりも、その切なそうな表情をとかく慰めたくなってしまう。

「も、もういいスザク。無理に話さなくても」

「だってルルーシュ……ぼ、僕は……」

「いいんだ」

のどかに湯気を立てるココアをテーブルに置いて、冷気でしんなりとした髪をそっと撫でてやる。

スザクがぎゅっと眉根を寄せ、ルルーシュの肩に頬をくっつけてくる。

「ルルーシュ、ごめん、本当にごめん」

「いいから落ち着け。俺は気にしていない……とは言えないが、とにかくお前がそんなじやまともに話もできない」

「ルルーシュ……僕は……僕は……」

優しい手つきに感極まったようにスザクの肩が大きく震える。そのままルルーシュの細い腰に縮むように抱きつき、スザクは身を切るような切ない声で叫んだ。

「あきらめられないよ、せつかくのルルーシュとクリスマスが!!」

「……………は?」

そして、ルルーシュの動きは一時停止した。

ぐずぐずとこねるスザクにココアを飲ませ、髪を乾かしてやり、ようやく聞き出した話にルルーシュは大きな溜息を落とした。

「クリスマスイブに仕事が入ったって……それが一体どうしたっていうんだ」

ほっとするやら呆れるやら、とにかく身体力が抜ける。

「ルルーシュのためにクリスマスに時間を使えないなんて、僕は最低だ」

「いや、最低って……」

「許して欲しい、ルルーシュ。本当にすまない」
脱力するルルーシュと逆に、スザクはごく真剣だった。

「僕は君の恋人なのに、こんなことも出来ないなんて」

「別に気にしないでいいんだが……」

正直、本当にどうでもよかった。

ニホンの習慣は知っているが、ブリタニア人であるルーシユにとつてクリスマスは家族のイベントだ。その日にスザクの予定が合わないことに、特別残念な気持ちは湧かなかった。

そう説明しようとして、けれど次の言葉にルーシユの言葉は止まる。

「今までこんなことなかったのに」

「……今まで？」

「うん。恋人とイブを一緒に過ごせないなんて、君も許せないだろう？だから、いつもなら必ずセシルさんが調整してオフにしてくれてたのに」

「……君、も？いつもなら？」

「今年はロイドさんが勝手に生放送の仕事をお願いちゃって……本当にごめん！まさか、君に限って一緒に過ごせないなんて」

「俺に限って——な」

びくりと引き攣る米神を右手で押さえる。要は、去年までのスザクはクリスマスを恋人に相当する誰かと過ごすに決まっていたことだ。ルーシユ以外の誰かと。

「いや、昨年スザクはまだ俺と出会っていない。むしろ、俺にとつてのスザクはナナリーとユーフエミアを誰かす宿敵だった」

以前のことをルーシユが知らないのは当然のことだ。胸の中にもやもやと生まれていく苛立ちを逃すように、ゆっくり息を吐く。

「とにかく、もういい。気にするな」

「気を使わなくていいんだ、ルーシユ。本当にごめん」

「別に気を使っているわけじゃない」

「でも、君には僕を怒る権利がある」

強い翡翠にじつと見つめられる。いつもなら胸がじわりと温まるはずなのに、今はただ妙な苛立ちが膨らんでいく。

「（こいつは今までどんな女と付き合っていたんだ。たかがクリスマスとときで大騒ぎするような人間だったのか？）」

「だから、もういい。この話は終わりだ」

これ以上この話をしたくなかった。だからはっきりと言ったのに、スザクは何を勘違いしたのか眉を下げた。

「やっぱり怒ってる？そうだよ、イブに仕事だなんて許せないよ」

「怒っていない。イブだから何だというんだ」

「だって、クリスマスイブだよ？それなのに僕は仕事だなんて、君に悪くて」

「……………」

気分が悪いのは別の理由だ。けれど、あんまりそんな風に言われると、不思議と自分がとても酷いことをされているような気持ちになってくる。

「もういいと言っているだろう？」

「でも、普通怒るだろう？誕生日とかイブは絶対に一緒に過ごすさきや」

「お前の常識にあてはめるな！俺は気にしてない！！」

「だって、怒ってるじゃないか！」

「怒っていない！」

怒っているとすれば、スザクに以前イブを過す相手がいなかったという事実と、その女達がスザクに仕込んだのだから下らない常識にだ。そして、スザクがルーシユを彼女達と同じような人種だとみなしていることだ。

「ルーシユ、本当にごめん。全部僕が悪い。でも、連動イベントの一つで、イブ当日の仕事はど

うしてもやらせなくて」

真摯に謝られるほど、苛立ちは大きくなっていく。ルーシユはアメジストの瞳を半眼に眇めた。

「だから、イブなんてどうでもいい！」

「ルーシユ……やっぱり怒ってるんだね」

「だから……………」

「あ、でも、イブには間に合わなくても、終わったら絶対に会いにくるから！」

あからさまに機嫌を取るような口調で、それが限界だった。ルーシユはスザクが脱いだばかりのダッフルコート投げつけた。

「くくくもういいっ！お前なんか出て行け！！」

冬空の下にスザクを追い出してから数日、スザクから届くメールをルーシユは徹底的に無視した。あれだけ言ったのに、しつこくクリスマスイブの仕事内容を謝るばかりだったからだ。

（あいつは俺を何だと思ってるんだ）

年中行事のイベントにこだわり続ける度量の狭い人間だとも言いたいのか。今までの女と同じように。

夕食後の団欒の真ん中、クイズ番組ではスザクが馬鹿丸出しの回答で周囲から笑われている。本当に心底こいつは馬鹿だと思いつつながら画面を睨みつける。

「お兄さま、どうなさったんですか？」

「……………いや、何でもありません」

「でもルーシユになったら、眉がぎゅうって寄ってますわよ」

一緒にテレビを眺める妹達に不思議そうに見つめられ、慌てて笑顔を取り繕う。

「さつきからスザクが不正解ばかりだから、あきれていただけだよ」

「ふふ、スザクさん楽しんですね」

「本当に、スザクってばおかしな回答ばかりね。きつとウィットがあるんだわ」

「……いや、馬鹿なだけだろ？」

いつもながら、妹達の解釈は好意的過ぎる。茶髪も頭の中も天然の男を眺めれば、テレビの中のスザクはどこまでも楽しそうに笑っている。

（人の気も知らずに）

今はその笑顔を見るだけで腹が立った。本当はこんな番組見たくない。でも、こうやってテレビ鑑賞を楽しむのは妹達と過二十大切な一時なのだ。

だから、ルルーシユは仕方なくどうしてもテレビでスザクを見なければいけない。不条理だった。

「あ、次スザクさんの番ですね！」

「頑張って、スザク!!」

スポーツアトラクションとクイズを織り交ぜたクイズ番組では、スザクと女性タレントが密室からの脱出に挑戦しようとしている。アスレチックを越えようと、スザクが自然に女性の手を引く。

（は！お優しいことだな。このフェミニストが！）

スザクが普段ルルーシユに向けてくる優しいさだ

って、こんな風に彼の身に染み込んだ単なる癖な

のかもしれない。そう思うと、画面を見ていられ

なかった。

妹達にばれないように視線を逸らし、ソファア

ーブルの上に見慣れない雑誌があることに気付く。

裏表紙らしき広告にはどこかで見た金髪が載って

いる。男性物のファッション雑誌のようだ。

（どうしてこんな物が……）

ルルーシユが買ったものではない。クロヴィス

もルルーシユの誕生日が終わるとすぐ旅に出てしまったし、シユナイゼルはもう半年も不在にしている。

何気なく雑誌を手を取って裏返し、ルルーシユ

は盛大に顔を顰めた。

表紙にでかかど載っているのはたった今日を

逸らしたばかりのスザクだった。

（……何だこの格好つけた表情は）

しかも、澄ました顔でポーズをつけるスザクに

被る文字は「クリスマス モテ・コーデ!!」。いかに

にインターネットが普及しようとして携帯がパソコン

に近い王道特集雑誌のようだ。

（今時こんなのを読むやつが本当にいるのか？）

表紙のスザクはファッション雑誌らしくきちん

と髪と服を整えられ、吸い込まれそうな翡翠色

の瞳でこちらをじっと見つめている。印刷物を相

手に思わず見つめ返しそうになって、乱暴にペー

ジを捲る。

開いた巻頭特集でルルーシユは唖然とした。

（榎木スザクの着るクリスマスモテ・コーデ……

お前は馬鹿かスザク！）

呆れたことに、このモテ・コーデという特集は

スザクをテーマに組まれているらしい。慌てて雑

誌に踊る文字を辿る。

（抱かれない男？冠達成？そんな化石のようなア

ンケートが未だに存在するのか……女子から絶

大な人気……これはスザクのことか？）

ページを捲っていけば、雰囲気を変えたいくつ

もの衣装に身を包むスザクが出てくる。つまり、

世の男達がこのスザクの着こなしたを真似てクリ

スマスに挑むための特集というらしい。

（しかも、うちの学園じゃないか!）

よく見れば、クリスマスイブ当日のデートを想

定しているらしい写真の背景はどう見てもアッシ

ユフォード学園だ。

（会長め……いつの間にかこんなことを……）

雑誌の中で、マフラーをぐるぐる巻きにしたスザ

クや、シックなスーツ姿を着たスザクがモデルの

女性に優しく微笑んでいる。それは、特別な時間

を誰かと過こしている嬉しさと高揚が伝わるよう

な写真だった。

（何だこれは）

煌びやかなツリーの側ではスザクが恋人へのプ

レゼントを抱えている。柔らかいその表情を見て

いると、どうしようもなくいららするような、

身体の中の柔らかい部分がぎゅうつと小さくなる

ような気持ちに襲われる。

「その雑誌、スザクの特集なのよ」

クイズ番組がCMに入り、ユフィとルルーシユ

が楽しそうにルルーシユの手元を覗きこんでくる。

気付けば紙がくしゃりとなるほどきつく雑誌を握

り締めていた。妹達に気付かれないよう、さりげ

なく皺を隠す。

「……ああ、そうみたいだな。男性雑誌があるか

ら驚いたよ」

「スザクの特集だから買ったの。ファッション雑

誌に出るって珍しいのよ。いつもみたいな雑誌も

いいけど、こういうのも新鮮でいいわね！」

「はい。スザクさんも自然な表情で素敵です」

スザクは今ではしよつちゅうランペルージュ家を

訪れている。いい加減見飽きてもよさそうなのに、

未だに妹達はアイドルとしてのスザクに目を輝か

す。それとこれとは別物らしい。

「それに、今回の特集はすこいのよ！これを見て、

ルルーシユ」

ページをばらばらと捲り、ユフィの細い指先が

特集の最後のページを指差す。

そこには「運動企画！今年のイブは柘木スザクと一緒☆」と弾むような文字で書かれていた。

「雑誌とテレビ番組の運動企画で、抽選でこの雑誌の格好をしたスザクとクリスマスイブにデートができるの！」

「……もしかして、それは生放送か？」

「あら、お兄さまも知っていらしたんですか？」

「当然のようなナナリーの答えにくらりとした。」

「仕事だ仕事だと言うから何だと思えば、まさかそんなに下らない内容だったとは。デートが仕事とは、開いた口が塞がらない。」

「どんな仕事なんだ、これは……」

「最高のクリスマスプレゼントってファンクラブでは好評なのよ！スザクとイブが過ごせるなんて、凄いいことなんだから。」

「だからと言って、人を馬鹿にしているだろう！」

ユフィがきよとんとする。

「あら、誰が？皆喜んでますよ？」

「いや……その……、そういったデートのような個人的な状況をテレビで放映するのがよくないと言っているんだ。」

「さわさわと波打つ胸の内を押し殺し、もつともらしく取り繕う。素直なユフィは納得したように頷いた。」

「そうねえ、ちよつと恥ずかしいかしら。でもスザクはアイドルだし、特別なことから。」

「抽選も凄いい倍率なんですよ、お兄さま。応募が80万通を越えているんです。」

「80万……？」

信じがたい数字だ。政令指定都市が軽くできあがってしまう。スザクがドル箱トップアイドルだと認識はしているけれど、それでも、そんな数の人間がスザクとクリスマスを過ごしたいと思っているものなのか？

「……それよりまさか、お前達も応募したんじゃないだろうな。」

「もちろんです！」

ユフィとナナリーが揃って声を上げる。

「くっ……お前達まで。」

妹達が80万の一部であることにルルーシュが愕然とする横で、テレビの中では脱出に成功したスザクのためのファンファーレが鳴り響いた。

クリスマスイブ当日は寒いけれどとてもいい天気だった。

アッシュフォード学園はイブの前からクリスマス休暇に入るので、咲世子とルルーシュは朝早くから手の込んだ料理を用意した。暗くなる頃にはコーネリアとクロヴィスも戻り、例年通り家族で和やかで暖かい時間を過ごすことができた。

いつもと違った点といえば、BGMが柘木スザクのデートを生中継するテレビ番組だったことくらいだ。コーネリアもクロヴィスもルルーシュも揃って洗い顔をしながら、妹達が譲らなかつたのだ。「スザクちゃんとイブにデートできるなんて、夢みたいですね！」

料理を食べつくし、ワインを片手にゆつたりと過ごす頃には、テレビの中のスザクは本日4人目とのデートを開始していた。クロヴィスとのチェスの合間にちらちらと視界に入るテレビ画面が奇立ちを増長させる。

衣装の数だけデートをするという趣向だったらしく、スザクは本日4度目の衣装替えをしている。

まるでファッションショーだ。夜半を過ぎた今は最後の衣装となるブラックスーツを身に纏い、少し前髪をあげた大人びた髪型に丁寧なセットされている。

「よろしくお願ひします。今夜は一緒に楽しもうね！」

昼間から数人とデートを続け、撮影され続けているはずなのに、スザクの笑顔は疲れを欠片も感じさせない。

雑誌と同じ爽やかで優しい笑顔が癪に障る。テレビを壊すわけにはいかなないので、腹いせに雑誌をぐしゃりと握りつぶす。途端にユーフェミアから非難の声が上がる。

「だめよルルーシュ！まだ切り取っていないのよ！！」

「いいだろ、こんな下らないもの。大体、今時こんな特集に頼る奴がいるとは思えないが。」

つきついで口調になるルルーシュに少し目を丸くした後、ユフィが雑誌をしっかりと取り戻しながらにっこり笑う。

「今も昔もきつと一緒よ。大事な人を喜ばせたるために、みんな頼りにするんじゃないかしら。」

「クリスマスとファッションは関連ないだろう。」

「そうね。私達にはあまりびんとこないけれど……でも、それがどんな日でも、特別にしたい日のために準備をしたり、目いっぱいおしゃべりするのって、相手が大切だからよね。」

「……」

「そのためなら、頼れるものは何でも頼っちゃうんじゃないかしら。」

ふと、何度も謝っていたスザクが浮かぶ。スザクはどうしてあんなに申し訳なさそうだったんだろう。ルルーシュはいいと言っているのに頭を下げて、あの後もずっとメールを送ってきた。

ルルーシュの背中をぼんと押すようにナナリーが楽しそうに笑う。

「はい！自分のために雑誌まで見て頑張ってた下さつたら、嬉しいです」

「……そういうものか？」

「そういうものよ、ルルーシュ。機会があればあるだけ、とびきり喜ばせたいじゃない。それが誕生日でもクリスマスでも、ニューイヤーでも」

ユフィが「ルルーシュだって私達のために美味しいお料理を作ってくれるでしょ？」と当たり前のように言う。

「それはそうだが——でも」

（スザクはどうしてあんなにしつこかったんだ）

ぼんやりとテレビに目をやる。画面の中ではスザクが女の子と手を繋いでクリスマスツリーを眺めていた。

『綺麗だね』

『はい、すごく綺麗です』

女の子は上気した頬で嬉しそうに微笑んでいて、スザクは優しくそれを見守っている。

彼がこの日を大事していようと、結局今一緒にいるのはルルーシュではない。テレビは文字通りそれを見せ付けてくる。

（俺は……）

テレビの中と現実のスザクの折り合いがつかなくて、身体の中で不協和音がことごとと音を立てる。それは、夜半から吹き出した風が窓を揺らす音によく似ていた。

日付を越える頃、ランペルージ家のクリスマスパーティーはお開きになった。寒々しい自室のエアコンをつけ、ぼすりとベッドに横たわる。

（スザクはどうするんだ？）

彼からは昨日メールがあった。「終わったら行くから、待っていて」とだけ短く書かれたメールに、ルルーシュは久しぶりに返信をした。スザクのよりもっと短い「わかった」と一言だけのメールにまだ返信はない。

生放送の長時間番組は先ほど終わったばかりだし、まだメールは見えないのかもしれない。どちらにしても、彼があんなにこだわっていた今日という日はとくに終わってしまった。

（それなら意味がないか——もう来ないかもしれない）

最初からルルーシュは気にしていなかったし、この日を特別ななんて全く思っていなかった。

（だから、これはスザクが悪い）

今夜スザクと会えないことがすごく寂しくて残念な気持ちになってしまっただけで、ルルーシュのせいではない。スザクが全部悪い。本当なら、こんな風に胸がちくちくと痛むわけなかったのに。それもこれも全部スザクのせいだ。

（もういい。寝てしまおう。朝起きてから電話すればいい）

恋人のイベントだと認識はしていなかったが、クリスマスは大切な人と過ごす時間だ。喧嘩をしていても、スザクへのプレゼントは用意してある。着替えようとのろろ起き上がった所で、こつりと窓が叩かれた。

はっと窓辺を振り向くと、カーテンの向こうに人影がある。

（スザクだ）

こんな夜更けに2階の窓から訪問してくる人間

なんて他にいない。ふわりと軽くなった気持ちに任せて窓に駆け寄り鍵を開けようとして、ふと手を止める。

（あいつ、まだあのスーツを着ているのか？）

きつと、スザクはルルーシュのメールを見てここへ来たのだろう。番組の終了時間から考えれば人間技じゃない早業だ。衣装をそのまま着てくる可能性が高い。

まして、初見の印象を裏切りスザクのセンスは壊滅的だ。アイドルとしては私服もそれなりである必要があるため、スタイリストが選んだ取材用の洋服を買い上げることにもよくあるらしい。いかにもといった風に全身コーディネートされた格好でルルーシュへ会いに来ることもよくある。

（もしあの服を着てきたら……）

何度も服を変えながら女の子とデートをしていた姿が浮かぶ。妹達ががんとしてチャンネルを変えなかったので、結局延々と番組は流れていて、ルルーシュは一部始終を見るはめになった。

雑誌の特集だけあって、洋服も髪も隙のない着こなしをしたスザクは、確かに女性が喜びそうな見栄えではあった。実際、デートの相手となる女性にはみんな大喜びしていた。

（ルルーシュ？僕だよ）

カーテンとガラスの向こうから不思議そうなスザクの声が聞こえる。

（嫌だ）

鍵を開けてやらなければと思うのに、腕が何だか重い。

窓の向こうにいるスザクは別の誰かのために用意した格好をしているのだ。スザクが衣装のまま来るのはいつものことなのに、今日は妙にそれが嫌だった。

（やっぱりスザクが悪い）

浮ついていた気持ちが急下降していく。あんな風に気取って女性をエスコートしていた格好で会いに来るスザクが悪い。使い回しなど冗談ではないし、大体スーツスタイルならルルーシユの方がよほど着こなしがうまい。

「……まだ怒ってるの？ルルーシユ」

窓の向こうの音が小さくなつていく。不安げな声にも腹立ちは治まらない。今のスザクを見たくないという気持ちが一気に膨らんでいて、このまま無視を通してやるかと思つた時、カーテンの隙間から白いものが見えた。

「雪？いつの間」

日が沈んでから随分と冷え込んでいたが、いつの間にか雪に変わっていたようだ。しかも今日は風も強い。いくら人外のスザクといえど、放つておいては風邪を引いてしまうかもしれない。

「……仕方ない、スーツ着用時の所作について説教してやるためだ。コーネリア姉上もさんさんケチをつけていた」

「……ルルーシユ」

「うるさい！今開ける！」
そのまま勢いよく窓を開き——ルルーシユは目を睨つた。

「よかった、ルルーシユ！遅くなっちゃってごめんね。もう会ってくれないかと思つた」

スザクがほっとしたような、少し困つたような顔で笑っている。けれど、ルルーシユはそれどころではなかった。

「お……お前、何だその格好は？！」

「え、何か変かな？」

ルルーシユに怒鳴られ、スザクが慌ててはたはたと手を這わせて自分の身体を確認する。

「変も何も——」

変だった。

スザクは奇妙なベルトのついたパンツに軍人のようなブーツをあわせ、マントともコートとも不明な青色の何かを着込んでいた。しかも、色合いはどれも地味かつ中途半端で、シヨップだったら最後まで売れ残りそうなものばかりだ。スザクは身体のパランスがよく顔立ちが整っているのだからそこ見れてしまうが、スタイリッシュとかクールとかとは対極にあると言っている。

あれほどきつちり整えられていた髪もすつかり崩れていた。ふわふわの髪がヘアメイクの名残で半端に固まり、あちこちに跳ね散らかっている。

「ルルーシユどうしたの？体調でも悪い？」

スザクがするりと床に降りて、黙りこむルルーシユの顔に手をあてる。いつもスザクの手はルルーシユよりずっと熱いのに、今は雪と同化したみたいに冷たい。

「いや、大丈夫だ。それよりお前……その格好は？」
恐る恐る尋ねると、スザクの顔がぱつと明るくなる。

「ルルーシユに会うために選んできたんだ！」

「え」

「僕はこういうの苦手だけど、今日はクリスマスアイブだから、ちゃんとしたくて」

「……そうか」

では、この奇妙な格好はスザクが自ら選んできたのか。あの、完璧にコーディネートされた仕立てのよさそうなスーツをわざわざ脱ぎ捨てて、ルルーシユのために。スザクが。

（それが、よりもよってこれか）

そう思うと、どうしようもなくおかしさがこみ上げてきた。

「ふっ……はははは」

「ルルーシユどうしたの？大丈夫？！」

何だかおかしくてたまらなかつた。スザクが驚

いて顔をのぞき込んでくる。乱れたその髪を直してやりながら、笑いは止まらなかつた。

「いや……はは、何でもなし。それよりお前、髪がぐちゃぐちゃだぞ」

「え、本当？！こ、ごめん！急いでたから……」
スザクが困つたように自分の髪をひっぱる。くせ毛を気にしているらしいスザクの癖の一つだ。

「変かな？」と心底困つたように整った眉を落とすのが可愛くて、ルルーシユは額に唇を落としてやつた。

「ル……ルルーシユ？！」

「気にするな。どうせまた、走ってきたんだろう」

雪の中、ルルーシユに会うために。
「そうだけど……せつかくクリスマスだから、今夜ぐらいいはかつこつたかかったのに」

「いや、十分だ」

モテコーデとやらには程遠いセンスの服も、乱れた髪も、80万人の誰でもなくルルーシユのためだけのものだ。

それは、確かに特別な夜にふさわしい。

「俺も、今夜はお前に会いたかつたよ」

まだ冷たい頬を撫でながら囁けば、6時間に渡る生放送のどの場面よりも魅力的な顔でスザクが微笑む。

「僕もだよ、ルルーシユ。メリークリスマス！」



そっか、今日は
クリスマスなんだ…



ルルーシユ
おはよう
ございます！

おはよう
ございます
お兄様！

ああ、
おは…







えっ何て？
何て書いて
あります？

シユナイゼルお兄様
からFAXよ！！

おはよう
諸君！

メリー
クリスマス！！

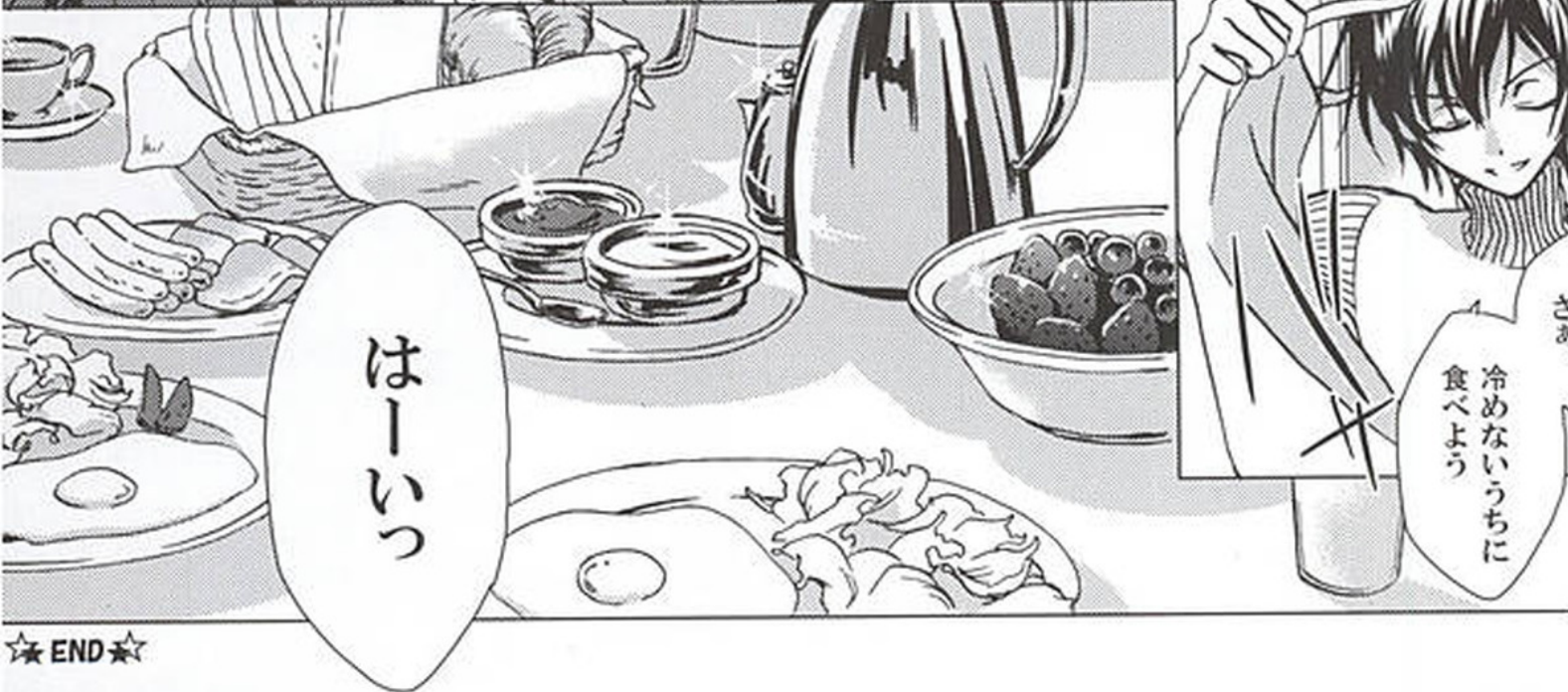
ん！！



ま、そもそも
夜中に窓から

忍び込む
というのは
どうかと
思うがな

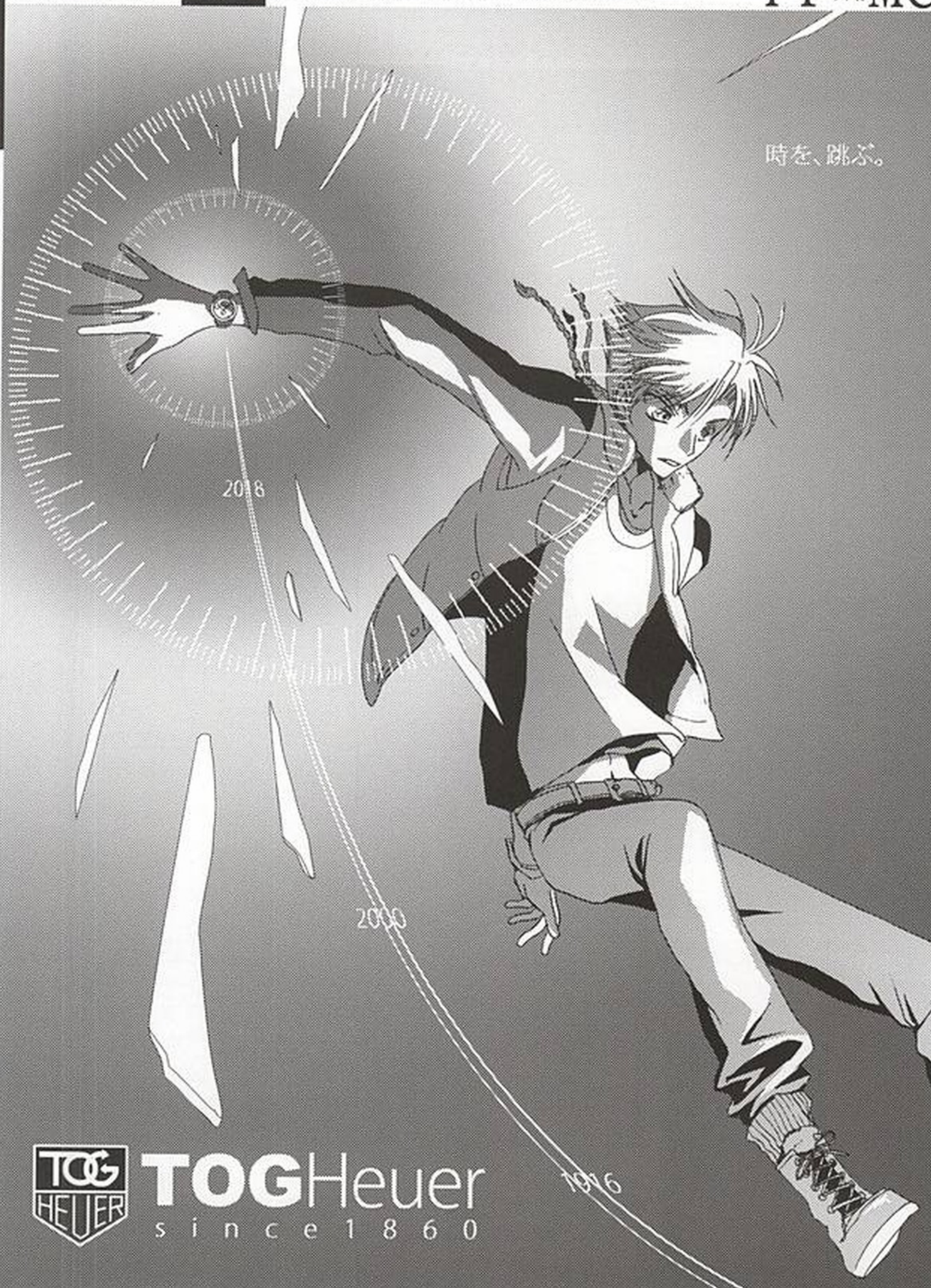
ハイ、
スミマセン



はーいっ

さあ、
冷めないうちに
食べよう

時を、跳ぶ。



TOGHeuer
since 1860

1916

MEN'S STYLE

MEN'S STYLE

× Grace

連動企画!!

今年の夏はいつもと違う!

枢木スザクと すごす 夏の一日...

好評だった前回のクリスマスイベント企画に続き、
なんと今度は夏に枢木スザクさんとのデートを
プレゼントしちゃいます!!
どうぞふるってご応募ください。
詳しい応募方法はGraceホームページにて。

応募要項

- 応募方法は、Graceホームページの『枢木スザクデート企画応募窓口』よりアンケートにお答えの上、お申込み下さい。
- ご本人確認のため、顔写真が必要になります(帽子、サングラス不可)。
- 厳正な抽選の上、当選者を決定します。
- 当選者の発表については、当選の連絡をもってかえさせていただきます。
- たくさんのご応募、お待ちしております。

※応募データは集計後速やかに破棄し、6ヶ月を超えて保有することはありません。

